



AMEDにおけるグローバルヘルスに 関連する取組について

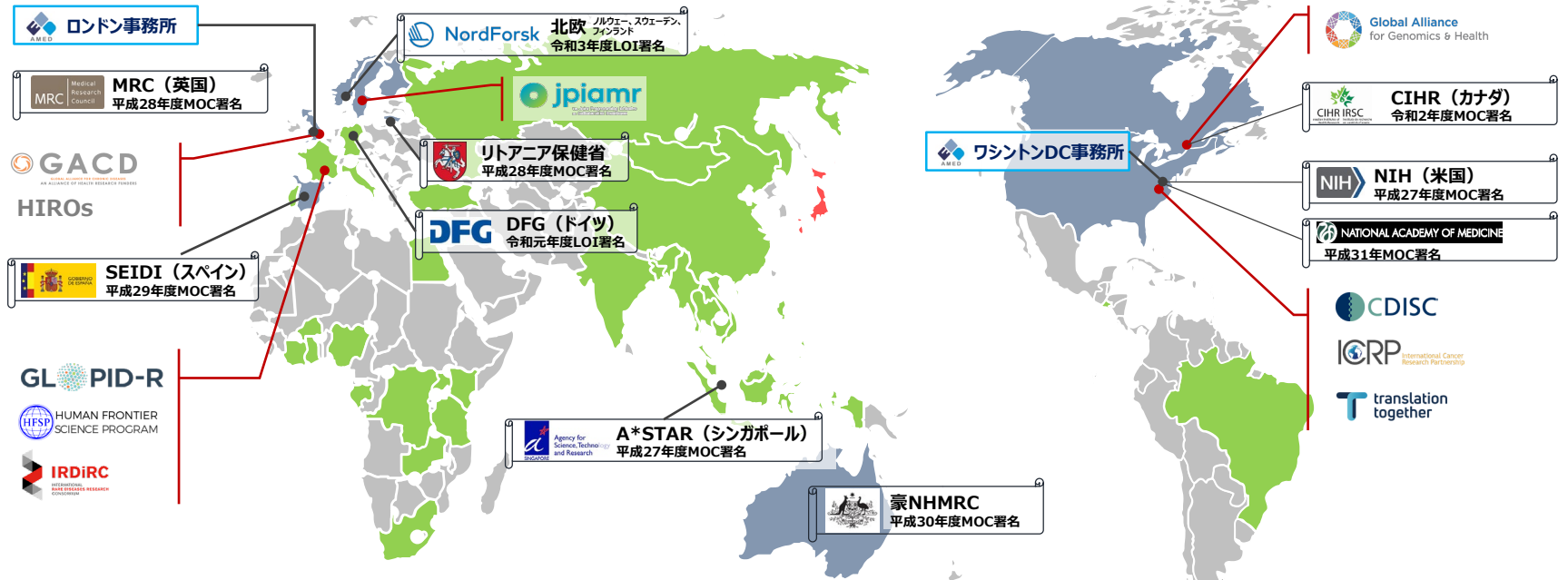
令和3年7月9日

第1回グローバルヘルス戦略推進協議会

日本医療研究開発機構

理事長 三島 良直

AMEDの国際連携ネットワーク



アライアンス名称	CDISC	GA4GH	GACD	GloPID-R	HIROs会議
	Clinical Data Interchange Standards Consortium	Global Alliance for Genomics and Health	Global Alliance for Chronic Diseases	Global Research Collaboration for Infectious Disease Preparedness	Heads of International Biomedical Research Organizations meeting
	臨床データ交換標準化コンソーシアム	ゲノミクスと保健の世界連合	慢性疾患世界連合	感染症対策世界研究協力	生物医学研究機関長会議
アライアンス名称	HFSP	ICRP	IRDIRC	JPIAMR	TT
	Human Frontier Science Program	International Cancer Research Partnership	International Rare Disease Research Consortium	The Joint Programming Initiative on Antimicrobial Resistance	Translation Together
	ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム	国際がん研究パートナーシップ	国際希少疾患研究コンソーシアム	薬剤耐性細菌共同事業イニシアチブ	トランスレーショントゥギャザー

世界規模の**非感染性疾患対策研究**の支援を目的に設立(2009)

世界の公的医療研究資金の80%を扱う機関が参加

GACD での研究の方向性

- 低中所得国において、**既にエビデンスがある保健介入**を横展開し（地方や国レベルに広げる＝スケールアップ）、その効果検証を求める。
- 対象国の**保健行政関係者を巻き込んだアプローチ**。
- 対象国・地域に於ける、介入の有効性（疾病率の低下、受療率の改善、経済効果等）を示すことができ、その有効性のある介入が**対象国で（研究期間終了後も）継続的に実施されていくような戦略**が示せること。更に、その国のNCD対策として制度化される等のアウトカムが理想。

AMEDの活動

企画・運営への参加：

- AMED理事長がBoard Member となり、会議に出席。
- AMEDロンドン事務所長がManagement Committee 委員を務め、研究プロジェクトの企画に参加。

研究プロジェクトへの参加：

- Mental Health：2017年度に2課題採択。
- Scale up Call for Hypertension and Diabetes：2019年度に2課題採択

Joint Peer Review への参加：

- 2017年度、2018年度 AMEDが推薦した日本人レビューアー2名ずつがジョイントレビューに参加。

GACDの研究成果の実装化への支援：

- 人材育成、政策導入支援、等

Global Research Collaboration for Infectious Disease Preparedness



エボラ熱の突発的流行における世界の対応の反省に立って、平成25年に設立された各国ファンディング機関等が参加する国際連携イニシアティブ。

現在29メンバー、3オブザーバー。

平常時から各国間で情報共有を進め、パンデミックの脅威となるような感染症のアウトブレイク発生後には48時間以内に効果的対応を行うことを目指して、メンバー機関間で対策や備えについて議論が進められている。

AMEDは2015年8月に加盟。

Board Member :

- Canadian Institutes of Health Research,
- French INSERM,
- European Commission,
- **Japan Agency for Medical Research and Development**
- South African Medical Research Council
- Wellcome Trust.

AMEDの活動

感染症の流行に対処するために**研究データや結果を共有**すること、またそのことが研究者の使命である**論文発表に不利にならないように取り組む**ことを、世界の研究支援機関や学術誌出版社とともに声明として発表

- 2016年ジカ熱流行
- 2018年エボラ出血熱流行
- 2020年COVID-19流行

Joint Programming Initiative on Antimicrobial Resistance



2013年設立。WHOとも連携するEU主体の薬剤耐性研究の国際連携コンソーシアム。耐性菌感染制御、抗菌薬の適正使用、耐性菌サーベイランスの強化等の取り組みを進めている。年1～2回程度共同公募を実施している。本部は、スウェーデン。AMEDは2015年10月に加盟。

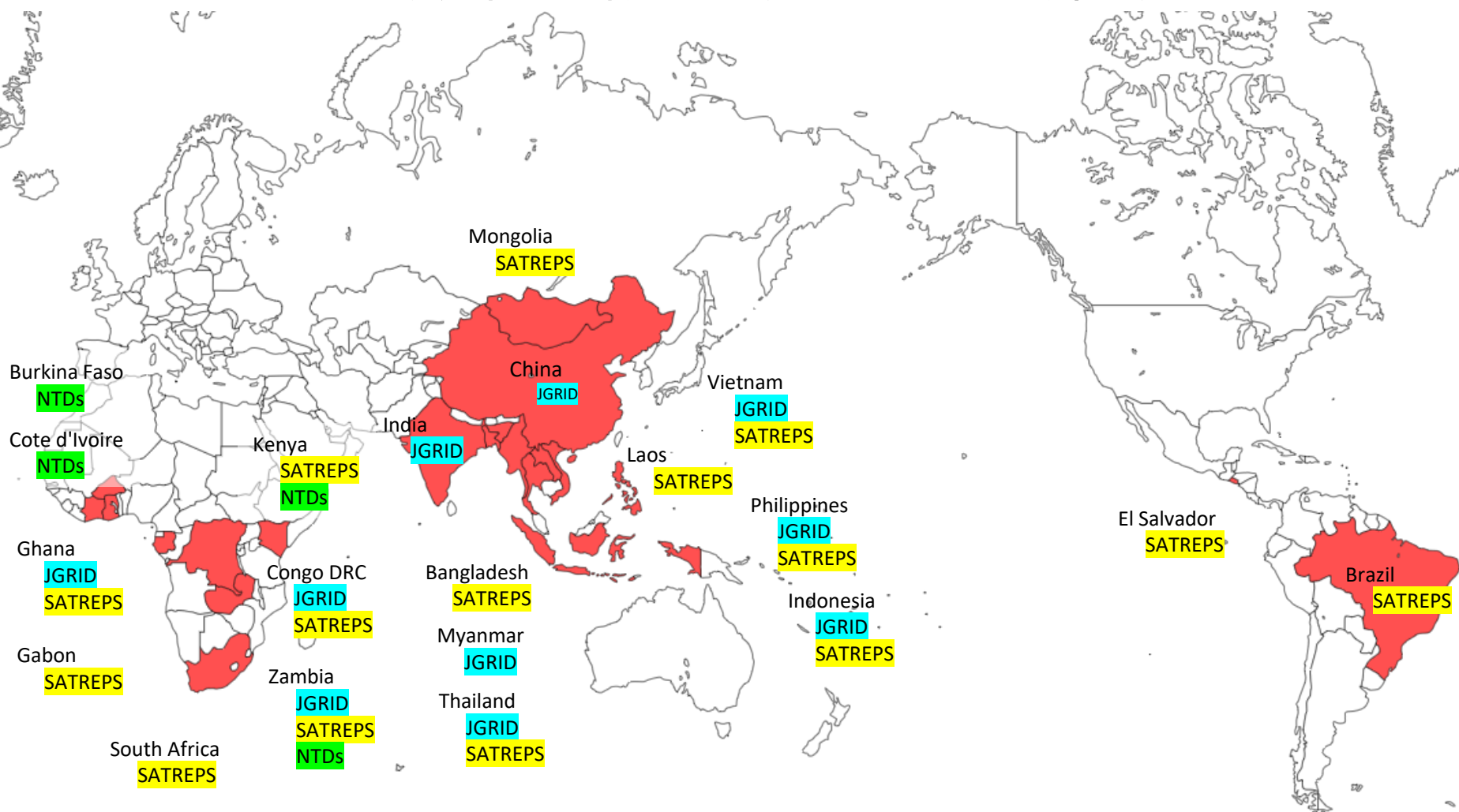
主な活動とAMEDの関わり

- 2017年9月 AMR環境ワークショップ (Environmental Dimensions of AMR Workshop)にAMED支援の研究者が参加
- 2017年11月JPIAMR VRI Workshop (ベルリン) への参加 (AMED感染症研究課、創薬戦略部、感染研AMR研究センター)
- AMR研究課題マッピング活動 (2018年夏以降公開予定)、AMEDからは、感染症研究課、医薬品研究課、国際事業部等のAMR課題情報を提供してマッピングに協力 (mapping of national research funding, Data input from AMED)
- AMR国際共同研究公募 ('Network Call on Surveillance' 2018年5月、VRI Network Call' 2018年中、2019年Diagnostics and Surveillance Tools Call)
- 理事会 (Management Board Meeting) 出席 (毎年)、AMED活動概要と薬剤耐性関連研究支援の紹介、感染研研究者より日本のJapan Nosocomial Infections Surveillance (JANIS)の活動紹介、ワンヘルスAMRパートナーシップ形成など。

グローバルヘルスに貢献する主な事業

- 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
 - 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)
 - 戦略的国際共同研究プログラム (SICORP) e-ASIA共同研究プログラム
 - アフリカにおける顧みられない熱帯病 (NTDs) 対策のための国際共同研究プログラム
- 地球規模保健課題解決推進のための研究事業
 - 低・中所得国の健康・医療改善に向けた、医薬品・医療機器・医療技術等の海外での活用に向けた臨床研究
 - 日米医学協力計画
- 新興・再興感染症研究基盤創生事業
- 開発途上国・新興国等における医療技術等実用化研究事業
- 臨床研究・治験推進研究事業
 - アジア地域における臨床研究・治験ネットワークの構築事業

AMED研究開発課題で活用している海外拠点



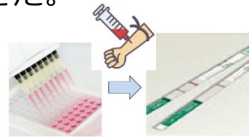
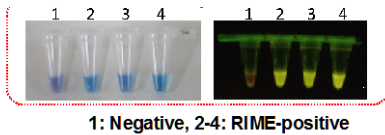
JGRID : 令和元年度終了事業「感染症研究国際展開戦略プログラム (J-GRID)」にて支援された海外研究拠点。現在、「新興・再興感染症研究基盤創生事業」において支援中。
SATREPS : 「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム」
NTDs : 「アフリカにおける顧みられない熱帯病対策のための国際共同研究プログラム」

個別の研究事例・成果

◆迅速診断法の開発とリスク分析に基づいた顧みられない熱帯病対策モデルの創成 (NTDs)

ハンセン病とヒトアフリカトリパノソーマ症 (HAT) の、低コスト・迅速診断法の開発、感染リスク分析による対策モデルの立案を目指すもの。

- ハンセン病においては、乾燥化遺伝子診断試薬を完成させ、ザンビア南部州でのアクティブサーベイに実装、11.7%の被験者を陽性と判定した。血清診断用イムノクロマトグラフィキットを完成させ、上記アクティブサーベイに実装し、12.7%の被験者を陽性と判定した。
- ヒトアフリカトリパノソーマにおいては、ツェツェバエの分布や原虫保有状況、ザンビア国内各地域での最新の発生状況調査等を通じて、感染リスクの高い地域を特定し、対策パッケージのプロトタイプに反映させた。



◆マラリアのない社会の持続を目指したコミュニティ主導型統合的戦略のための分野融合研究プロジェクト (SATREPS)

【研究内容 1】

ケニア・ヴィクトリア湖周辺地域を対象地とし、無症候性感染、殺虫剤抵抗性媒介蚊や不適切なマラリア予防行動といった課題に対し、新規蚊帳素材を用いた天井式蚊帳や地域住民の行動変容を促す行動経済学的仕組みの有用性を、フィールド介入試験によって検証する。



図1：天井式蚊帳の取り付け

【研究内容 2】

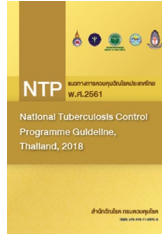
現地ホマベイ郡病院に確立するマラリア撲滅センターを中心に、分子疫学、遺伝学、血清学、媒介昆虫学、社会経済学といった多角的視点でマラリア感染と発症をモニタリングし、同時に無症候性の感染や伝播強度の不均一性の本態を明らかにする。



図2：マラリア撲滅センター

◆タイ結核対策ガイドラインに研究成果が掲載 (SATREPS)

タイと共同で結核菌全ゲノム解析手法を開発し、結核発症リスク遺伝要因の機能解析から結核発症の分子メカニズムを明らかにした。この成果がタイ国家結核対策ガイドラインに採用され、すでにタイ保健省が提供する医療サービスとして開始されている。



◆薬剤耐性菌モニタリングによりベトナム保健省から表彰 (SATREPS)

豚肉からコリスチン耐性に関わる遺伝子を見出すとともに、多数のベトナム住民が耐性遺伝子を持つコリスチン耐性菌を保有している状況を明らかにした。



その結果ベトナム保健省からベトナム人民健康功労記念章を授与された。



◆簡易迅速診断キット製造、モンゴル国内で活用 (SATREPS)

トリパノソーマ病とピロプラズマ病に対する簡易迅速診断キットについて、モンゴル国での製造と販売登録が完了。現在、それらキットをモンゴル政府農牧省が購入し、14県に配布し、地方獣医師たちによって活用されている。



薬剤耐性（AMR）に関するアジア－大洋州ワークショップ

目的

- アジア－大洋州におけるAMR研究動向の情報交換と将来的に優先すべき研究トピックの同定
- アジア－大洋州におけるワンヘルスの科学、政策面での議論および地域内連携の促進

開催日・場所

- 日時：2021年3月4、5日
- 会場：ウェブ開催

共催：AMED, 豪州NHMRC, ニュージーランドHRC, 米国NIAID

SESSION I: AMR in One Health

SESSION II: Global AMR and Regional AMR Coordination

SESSION III: Strategies for Improving Antimicrobial Drug Development

AMRに関する事業、政策、戦略に関するこの地域における調整メカニズム構築の可能性について大西洋地域におけるTrans-Atlantic Task Force on Antimicrobial Resistance (TATFAR)がそのモデルとして議論された。